

## 目指す先

校長 安達 修久



観測史上最速で梅雨が明けました。あつという間に真夏の陽気になり、水泳学習が気持ちよく進められますが、WBGTの値が高くなり、外で遊ぶのは難しくなっていました。

学校では引き続き感染症の予防とともに、熱中症の予防にも配慮しながら活動を行っています。暑いときにマスクを外すよう促しても、外すことに不安があるためかもう慣れているためか、マスクを着けたままでいる子が多くいます。水分補給のときに、マスクを外して深呼吸する時間を設けるなどして、クールダウンの働きかけをするよう努めています。

5月には教育実習の学生が学校に来ていました。担当教員をはじめ教職員全体で指導にあたり、子どもたちと良いかかわりをつくり実習を終えることができていました。

また、6月からは教育インターンシップとして複数名の学生が、それぞれ週半日程度学校に来て、教室の支援に入りながら実習を行っています。短時間ながら毎週継続して教室に入ること、こちら子どもたちと良いかかわりをつくっています。どの学生も、教員を目指すという熱い思いを抱いて実習に取り組んでいます。

昨今、仕事のマイナス面がクローズアップされる傾向があるためか、教員の志望者数や教員そのものの数が減っているというニュースが流れています。そのような状況の中、学校現場で教員として働きたい、子どもたちとかかわって教育活動を行っていきたく希望する若者が、何人も学校を訪れ実習に励む姿を見るのは、大変うれしく冥利に尽きることです。身近で教員の勤務する姿を目の当たりにし、働く中で楽しいことと、そればかりではないことを実感することがあるはずで、それでもなお学生たちは、私の目をまっすぐ見て「教師になりたいです。」と口々に言うのでした。

私が教員を志した理由はいくつかありますが、その中の一つに「自分が担任教師となって楽しいクラスをつくりたい」というものがありました。実際に教員となってからは、できる限りそのように努めてきたつもりです。そして今では、私一人ではなく釜利谷小学校全体で、本校の教育目標「たのしいわたしの学校」の実現に努めているところです。あるクラス、学年だけでなく、どの子にとっても楽しい学校であるよう、教職員一丸となって取り組んでいます。学校組織としての教職員のこの取り組みは、真摯に仕事に向き合う姿、子どもたちをはじめ保護者、地域の方々と誠実に向き合う姿として、身近な大人・社会人として子どもたちや学生のモデルとなり手本になるものではないかと考えています。

そして「たのしいわたしの学校」の実現のためには、ご家庭や地域のご支援ご協力が不可欠です。6月には土曜参観を行い、保護者の皆様に学校に来ていただきました。また、同じ日に教育懇話会を開いて、地域の方々にも学校に来ていただきました。「釜小学校支援隊」ボランティアの活動も随時行われ、まだまだ制限付きではありますが、コロナ前の学校の姿に少しずつ戻そうとしています。

子どもたちが生き生きと学ぶ学校が、保護者・地域の皆様にとっても「たのしいわたしの学校」となるよう、日々努めていきたいと思えます。